

# 教育だより

町内の3つの中学校では、実際に働くことを体験する「職場体験学習」を行いました。生徒たちは、働くことの厳しさや大変さ、喜びや楽しみを、体験を通して感じ取ったようです。地域の皆さんの協力により実現したこの貴重な体験学習は、勤労観や職業観を培い、将来の夢や目標の実現に役立つことでしょう。

それぞれの学校の取組を紹介します。

問い合わせ 学校教育課（内線5222・5233）

## 中学校職場体験 働くことの実体験を通して



◀株式会社藤久保店…品出し作業、棚一杯に商品を並べています。



▶メイジテクノ(株)…顕微鏡を造っています。細かい部品がたくさんあります。



▲埼玉西部産直グループの早川さんの畑…にんじんを収穫した後の畑、残った葉は肥料になります。

### 三芳中学校

本校の職場体験学習は、総合的な学習の時間の一環として2年生で実施しています。総合的な学習の時間の学校テーマを「郷土三芳町を愛する」とし、2年生でのテーマを「三芳町の産業」としています。ねらいを①身近な三芳町の産業について興味・関心を持ち、自ら課題を見つけて解決できる。②三芳町の産業の特色を知り、体験活動を通して自分の生き方を探ることができる。③キャリア教育の理念に基づいた好ましい勤労観・職業観を持つことができる。④、全生徒が課題を設定し、課題解決学習を行います。事

前学習↓職場体験活動↓課題設定↓課題解決↓探求活動学習↓発表↓継続学習の学習過程が確立され、一連の流れで毎年実施しています。

本年度は1事業所あたり2〜10人が23カ所の事業所に分かれ、7月に3日間の職場体験学習を実施し、後の円滑な課題設定に役立てるために「体験日誌」に1日の活動の様子や体験を通して学んだこと、もつと知りたこと等を記入させました。日誌には保護者の記入欄を設け、子どもの活動の様子を知らせるとともに、感想や励まし言葉の記入をいただきました。このことは、家庭内でも職場体験活動のみならず、自分の将来や三芳町の未来について、親子で話し合う機会をつくる結果となりました。

職場体験活動後 課題設定から発表に向けての活動は職場体験活動とは別に3〜6人のグループを再編成しました。そして、全員が発表(発言)する場面を設けるように、2年生100名が26グループに分かれ、プレゼンテーションソフト、OHP、模造紙を基本とする発表形式で準備を進めました。「グループ内発表会」(学年発表会)を経て、

自分たちの発表の仕方を改善しました。多くの人に発信するため、総合的な学習の時間の「全体発表会」を9月第2土曜日に実施し、より精度の高い発表に仕上げることができました。

生徒たちは職場体験活動を通して、施設や事業所等の多くの方々と接し、自分がかかるところに愛されたかということや、自分をより深く知り、本校の目指す生徒像である「格好いい中学生」へと成長しています。今後も地域や保護者の願いのもと、これらの教育力を活用させていただき、特色ある教育活動を一層展開できるよう創意工夫・改善を重ね、「格好いい中学生」の育成に教職員一丸となって取り組んでいきます。



▶(株)矢島工務店:足場をつくる資材を束ねる作業中

### 三芳東中学校

三芳東中学校では毎年2年生で職場体験学習を実施してきましたが、本年度より1年生が行うことになりました。更に、今年度は学校が職場体験を届け、入った事業所を探し、電話等でお願いをしてから生徒に返信を取り、人数によって各事業所へ振り分けていたのが、本年度より生徒自らが自分たちで事業所を探し、自分たちで依頼しに行く方法に変更しました。今までは決められた事業所から選ぶので第1希望ではない事業所に行くこともあったのが、こうすることによって、自分の希望する職種・事業所へ行くことができるようになりま

した。もっとも、今回、初めての方法を行ったこともあり、第1希望の事業所に承諾をもらった生徒は23で、あとの生徒は二度、三度と新しい事業所を探さなければなりませんでしたが、そのおかげで、自分たちで探して開拓できた事業所というところもあり、例年以上に意欲的で熱心に取り組めたと思います。最終的に、生徒の参加出席率、事業所77ヶ所で本年度の社会体験チャレンジを実施しました。



▲南くらづくり本舗ふじみ野店…お客さまのために商品をきれいに並べます。

⑤新しい自分を見つけた。今回の体験を終えて戻ってきた生徒たちも「大変だった」「とても疲れた」「緊張した」などと言いつつも「またやりた」「将来働くならあのお店がいい」「1つでも疲れたけどとても面白かった」などなど生き生きとした感想を述べていました。あるクラスで聞いたところ、もう一度行きたい人という問いにはほとんどの生徒が元気よく手を挙げました。生徒にどういった大変な意味で貴重な体験だったのねらいは次のとおりです。

- ①今まで知らなかった職業の世界を体験する。
- ②いろいろな人とふれあい、生き方を学ぶ。
- ③学習の重要性を理解する。
- ④社会のマナーやルールを学ぶ。

▲入間東部地区消防組合三芳分署…放水訓練実施中



### 藤久保中学校

藤久保中学校第2学年では、9月17日・18日に職場体験学習を実施しました。この取組は、「礼儀や誠実さ」とともに働くことへの心と協力する」とも、思いやる心を育てる」を目的として、実施しました。とくに生徒が自ら取り組む力を育てるために、事業所との電話連絡や事前の打ち合わせ等、生徒自ら取り組みました。電話の対応では、緊張しうまく話ができない場面や、ふだん使っていないことばのため、ぎくしゃくした話し方になっていました。慣れない中にも、真剣に精一杯対応している姿が見られたことは、よい経験になったと思います。



▲(有)協栄車両整備…タイヤの点検実施中

が、休むことなく、2日間実施することができ、生徒それぞれがものが多かったと思います。体験中の事業所から生徒へのことばとは、保護者から職場へのご挨拶の感想のいくつかを紹介したいと思います。

- (生徒の感想) 2日間を振り返り、仕事を通して貴重な経験をさせていただきました。挨拶も、最初は聴かして大きな声が出せていましたが、だんだんに自信を持って大きな声を出せるようになりました。また、商品を大切に扱うことの大切さも知ることができました。
- 体験を実施した中で、大人が人のために働いている姿を羨ましいと思いました。お年寄りや患者の方と接するときに心を開いて接することが大切だということを感じました。仕事はたいへんですが、人のために働く姿はキラキラしていました。



▲(株)木村屋総本店(三芳工場)…ふくらみ焼きあげますように(保護者から事業所へ) ◆スタッフの皆様らしく接して

お忙しい中、事業所の方々にば親身になって指導していただき、ありがとうございます。

**図書館だより**

中央図書館 ☎258-6464  
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00  
竹間沢分館 ☎274-1722  
火～日 11:00～18:00



**11月の予定**

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

★11月16日(土) 17日(日) 20日(水) 21日(木) 22日(金) 23日(土) 24日(日) 27日(水) 28日(木)

＜中央図書館＞  
ぐりぐらタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)  
第1・3金曜日 (保護者同伴)  
11:00～11:15 6ヶ月～1歳  
11:20～11:40 2・3歳～  
第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳

♥としよかん・くらぶ会員制一  
(読み聞かせとブックトークで本に親しむ会)  
10:00～11:00 1・2年生  
11:10～12:00 3～6年生  
※11月は「親子読書会」。おうちの方も一緒に本の世界を味わいましょう。

＜竹間沢分館＞  
ぐりぐらタイム (絵本・紙芝居・手遊び等) 第4火曜日  
11:00～11:30 1～4歳 (保護者同伴)

◆スイミーおはなし会  
(絵本・紙芝居・ブックトーク)  
第4木曜日 16:00～16:30  
4歳～小学生

**★絵本作家 西内ミナミ先生講演会 (申込制)**  
～『ぐるんぱのようちえん』など自作を語る～

日時 11月15日(日) 14:00～15:30  
対象・定員 おとな(小学4年生以上なら可) 70名  
場所 中央図書館視聴覚室  
申込み受付中 中央図書館まで。電話可。



『ぐるんぱのようちえん』  
西内ミナミ さく  
堀内誠一 え

**\*西内ミナミ先生\***

杉並区在住。京都に生まれる。堀内誠一氏のすすめにより、はじめての絵本『ぐるんぱのぼうけん』(1965年)をかき。その後、『おやまごはん』『おもいついたらそのときに!』(共にこぐま社)、『とんがとびんがのプレゼント』(福音館書店)など、子どもの心をつかむ魅力的な作品を多数生み出し続けている。

**♣おはなしの小箱 (申込制)**  
おはなしサークルかにかにこそこそ  
15周年記念お話し会

日にち 11月21日(土)  
場所 藤久保公民館ホール  
共催 おはなしサークルかにかにこそこそ・町立図書館  
申込み受付中 中央図書館まで。電話可。  
【午前の部】 ※親子で楽しめる内容です。  
時間 10:30～11:30  
対象・定員 4歳～小学生・50人(大人の方もどうぞ!)  
【午後の部】 ※笑い話からロマンティックな物語まで。  
時間 13:30～15:50  
対象・定員 おとな70人(小学4年生以上なら可)

**三芳の文化財**

三芳村誕生二〇〇年  
三芳村の農業・サツマイモ

前号で明治時代の三芳村で盛んに生産された藍を紹介した。今回は、もう一つの主要な産物サツマイモを紹介しよう。

サツマイモは寛延四年(一七五二)に三芳町の隣村南永井村で作付けが始まり、近隣の生産が広がり、文化十五年(一八八八)には江戸で富のいも」として評判になる。富は三富のこと、すでに特産化していた。明治時代になると、「富のいも」はこの地方の中心都市である「川越いも」に名前が変わっていくが、先に書いたように、三芳村付近のサツマイモの品質のよさは、東京で「舟和の羊羊羹を生産させるほど」に評判がよかった。

明治三年(一八九八)に、一世を風靡するサツマイモが発見された。木崎村(現さいたま市北浦)の山田いちどという女性が、突然異変の中から皮が赤く、実は鮮やかな黄色で「ホクホク」感の強い「暫種」を発見。「ベニアカ」をつけ普及していった。昭和六年の記録によれば、東日本のサツマイモ生産の九〇％が「ベニアカ」に変わった。この頃の三芳村のサツマイモも、ほとんどが「ベニアカ」で、三芳村の「ベニアカ」は特にうまいと評判であった。

しかし、当時の日本は対外戦争に

向かう頃この昭和六年に政府は「農林一号」というサツマイモの普及を奨励し始める。大きなものでは三、四畝になるが、甘みが薄く、太付きが多く、決して食糧には適していないが、穀粉が多く取れる。国策ゆえに「農林一号」生産は広がり、三芳でも「ベニアカ」生産は広がり、三芳でも変えるを得なかった。アルコールは飛行機燃料としての軍事的な重要性が高かった。アルコロールは、しかし日本の敗戦色が濃くなり、食糧難になる、収量の高い「農林一号」は、配給食糧用に変わっていく。甘みが弱く、太付きが薄く、「農林一号」は、人気があがらなかったが、食料不足の中「農林一号」で飢えをしのいだ。サツマイモ嫌いが増えたのは、この時代のせいだといえる。

太平洋戦争が終了後しばらくは食糧難が続くが、昭和七年頃になると、ようやく食糧難も落ち着き、三芳では特産品種「ベニアカ」に生産が戻っていった。他の多くの地方では、「農林一号」生産の必要性がなくなる。ほとんどもがサツマイモを作らず、他の農産物に転作していく。味の良い「ベニアカ」も、かつてほどに生産は伸びず、三芳村周辺と千葉県で僅かに復活しただけであった。その後、三芳のサツマイモ生産農家は、技術を向上させ、今では、このベニアカを中心とした「富の川越いも」をブランド化させ、再び脚光を浴び始めています。

秋、サツマイモの収穫の最盛期。伝統の「富の川越いも」を是非賞玩あれ。

**健康スポーツライフ**

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。

問い合わせ スポーツ振興課(総合体育館内) ☎258-0311

**先月に引き続き『お家でできる簡単トレーニング』今月は『有酸素運動編』です。**

有酸素運動とは、ウォーキングやジョギング、水泳、エアロビクスなどの全身を使った運動です。主に、脂肪燃焼効果や心肺機能の向上などの効果が期待できます。今回は、自宅でも出来る簡単な「リズム運動」を紹介します。



1.まずは、その場で歩きましょう。写真①



2.次は、斜め前に足を交互に踏み出します。写真②→写真③

踏み出した後は脚を後ろに交互に戻します。写真④→写真③

1→2を繰り返し10分くらい行うことが目安です!!

**『Are You Ready?!』  
今までの自分から新しい自分へ**

日時 11月23日(祝)、午前9時～  
利用料金 無料  
利用時間 無制限  
※初回講習を受けた方に限りますので、当日は講習済み証をお持ちください。詳細は、総合体育館フィットネスルーム(☎258-0391)までお問い合わせください。

**《らくらくスリム》**



**金曜日 14:15～14:45・講師：清水啓**  
このクラスは、リズムに合わせて行なう有酸素運動とチューブなど道具を使った簡単な筋力トレーニングを組み合わせで行なうレッスンです。初心者の方や高齢者の方にお勧めしています。  
ぜひ、ご参加ください。

**教育トピックス**

9月14日(月)「藤久保小学校開校40周年記念集会」が開かれました。木田校長先生の「藤久保小学校は今年40歳のお誕生日を迎えます。藤久保小学校が誕生した頃のことを先生は知りたいと思うのですが、皆さんはどうですか?」というあいさつから記念集会が始まりました。その言葉を受けて、開校3年目から10年間にわたって藤久保小学校に勤務されていた、島崎利雄先生が、開校当時の様子をお話してくださいました。

藤久保小学校は、三芳村が三芳町となった昭和45年4月に開校し、翌年に辺り一面畑の中に、1号館の校舎が完成しました。開校から4年目の2月4日、待望の校歌が制定されました。校歌発表会当日はともやまい日でしたが、初めて全員揃って校歌を歌った日は、初めて全員揃って「青空光る 武蔵野に 足なみそらえ」声響かせて!と口ずさみながら話してくださいました。

記念集会が終ったところで、ひまわり学級の児童は、「島崎先生が昔の藤久保小学校の話をしてくれて、今とはずいぶん違うと思います。」「島崎先生が40年前の学校の近くは校舎が多く、校舎からのながめが良かったといっていました。」と



▲藤久保小学校開校40周年記念集会の様子

藤久保小学校開校40周年にあたって  
開校当時をふりかえり  
集会の様子を作文に書いていました。5、6年生の児童(ヘインクビユー)と「学校の周りの様子が大きく変わったこと」を聞いて、多くの人が三芳町のためにがんばってくれたことを知りました。今度は自分たちが藤久保小学校の歴史を守ってきたことと思います。「卒業生で活躍している人がたくさんいることを知り、自分も将来はヒューストとして活躍できたいと思います。」  
「話を聞いてプレッシャーも感じたけど、次は自分たちががんばろう」と思いました。「頼もしい言葉が返ってきました。」  
最後に全校で校歌を歌いました。40年前と変わることもなく、元気に体育館いっぱい響き渡ったのはなんでしょうか。記念集会を通して、児童の皆さんは藤久保小学校の素晴らしき歴史を知ったことでしょう。そして、これからの歴史を創っていくのは、この集会に参加した皆さんのことです。これから続く50年、60年と着実に歴史の足跡を刻んでいって欲しいですね。